

資料3-1

下水道技術開発会議における  
令和4年度の取組実績

# 下水道技術開発会議の検討課題

- ◆ 活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」
  - ・事業主体の技術的課題の調査
  - ・各種会議(本省、地方)における技術的課題、技術情報の活用 等
- ◆ 活動の柱②「技術シーズの把握と発信」
  - ・技術提案募集とロードマップへの反映
  - ・国内技術情報(学会等)の検索システム
  - ・海外情報(情報源)の提示
- ◆ 活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」
  - ・技術相談窓口の提示(各機関のQ&Aコーナーの活用等)
  - ・意見交換の場(SNS等)の設置
  - ・重要な技術開発テーマ・要求性能の提示 等
- ◆ 活動の柱④「国などの技術情報の共有」
  - ・B-DASHや各種技術の情報の集約・発信
  - ・共通的な技術課題の継続的評価と成果の発信 等
- ◆ 活動の柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援」
  - ・技術導入実績の情報開示
  - ・都市や支援主体の共同研究等の情報収集と公開
  - ・小都市向けの技術開発、普及支援の方策の検討
  - ・先進的事例、技術開発の手順の提示 等
- ◆ 活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」
  - ・技術ビジョン・ロードマップのフォローアップ
  - ・ロードマップ重点課題など、重点化して実施すべき技術開発テーマの提示
  - ・技術開発・普及の各支援制度の評価
  - ・各支援制度や関連施策に関する提言 等

# 令和4年度の実績 #1

- ◆ 令和4年度の下水道技術開発会議では、下水道技術ビジョンのフォローアップの一環として以下の取組を実施
  - ◆ 活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」
    - ✓ 課題解決技術支援ツール(試行版)の試用都市に対するヒアリング調査  
⇒ ツール改良時の参考(下水道技術開発レポート 2022 第2章(1)参照)
  - ◆ 活動の柱②「技術シーズの把握と発信」
    - ✓ 下水道関連企業に対する、技術開発状況や提案等に関するアンケート調査  
⇒ 国が施策を検討する際の参考(下水道技術開発レポート 2022 第2章(2)参照)
    - ✓ 技術シーズ調査として、下水道革新的技術の実証テーマ等を募集  
⇒ ロードマップ重点課題の選定(下水道技術開発レポート 2022 第3章(1)参照)
  - ◆ 活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」
    - ✓ 新マニュアル・ガイドライン類の導入・活用状況に関するアンケート調査  
⇒ ツールへの情報追加(下水道技術開発レポート 2022 第4章(2)参照)

## 令和4年度の取組実績 #2

- ◆ 活動の柱④「国などの技術情報の共有」
  - ✓ B-DASH普及展開状況の調査・公表
  - ✓ ⇒ (下水道技術開発レポート 2022 第4章(1)参照)
  
- ◆ 活動の柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援」
  - ✓ エネルギー分科会において、2050年CNに向け速やかに取組むべき項目の抽出、GHG削減目標設定支援ツールの公表等
    - ⇒ (下水道技術開発レポート 2022 第4章(3)参照)
  - ✓ B-DASH普及展開状況の調査・公表【再掲】
  - ✓ ⇒ (下水道技術開発レポート 2022 第4章(1)参照)
  
- ◆ 活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」
  - ✓ ロードマップ重点課題の選定
    - ⇒ (下水道技術開発レポート 2022 第3章(1)参照【再掲】)

## 令和4年度の取組実績 #3

### ◆ 活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」続き

#### ✓ ロードマップの改定

⇒ (下水道技術開発レポート 2022 第3章(2)参照)

改訂時期	ロードマップ該当箇所	主なロードマップの見直し・追記事項
R5.3	④雨水管理 (浸水対策)	<ul style="list-style-type: none"> <li>加速戦略改定VIを受け、中期目標を「最大クラスの内水に対応した浸水想定区域図作成と、複数降雨による多層的な浸水リスク公表、水位・雨量等の情報を活用した避難に資するトリガー情報提供の促進」に改定</li> </ul>
	⑥流域圏管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>加速戦略改訂III-2を受け、中期目標に「瀬戸内海環境保全特別措置法の改正により「栄養塩類管理制度」が創設されるなど、生物多様性・水産資源の持続的な利用の確保の観点から「きれい」だけでなく、「豊かな」水環境を求めるニーズが高まってきている。」を追加</li> </ul>
	⑦リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>加速戦略改訂II-1を受け、中期目標に「新型コロナウイルス感染症の対応の一つとして、下水サーベイランスの活用が期待される。」を追加</li> </ul>
	⑨地域バイオマス	<ul style="list-style-type: none"> <li>当面の技術目標 (2025年)、中期技術目標 (2030年)、将来技術目標 (2050年) に改定</li> <li>技術目標1「地域の間伐材等の未利用資源を活用して脱水効率、消化効率、焼却効率を向上させる技術の開発」に改定</li> </ul>

## 令和4年度の取組実績 #4

改訂時期	ロードマップ該当箇所	主なロードマップの見直し・追記事項
R 5.3	⑨地域バイオマス	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術目標 5 「高負荷価値製品等の製造技術の開発」に改定</li> </ul>
	⑩創エネ・再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化対策計画を受け、中期目標の下水汚泥エネルギー化率の目標値を約37% (令和12年度) に改定</li> <li>当面の技術目標 (2025年)、中期技術目標 (2030年)、将来技術目標 (2050年) に改定</li> </ul>
	⑪低炭素型下水道システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術開発分野名を「脱炭素社会に資する下水道システム」に改定</li> <li>加速戦略 II-2を受け、長期ビジョンに「2050年カーボンニュートラル実現」を追加、中期目標を「2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で208万t-CO<sub>2</sub>削減」に改定</li> <li>地球温暖化対策計画を受け、中期目標を「下水処理水量あたりのエネルギー消費量を毎年約2%減少、2030年に約60万t-CO<sub>2</sub> (2013年度比)削減」に改定</li> <li>当面の技術目標 (2025年)、中期技術目標 (2030年)、将来技術目標 (2050年) に改定</li> <li>技術目標1「下水道施設の省エネ・創エネとあわせたエネルギー消費最小化とエネルギー自立に向けた技術開発」に改定</li> <li>技術目標2「水処理・汚泥処理の最適化に資する技術開発」に改定</li> <li>技術目標3「下水道から排出されるCH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>Oの排出削減に関する技術開発」に改定</li> <li>技術目標5「カーボンニュートラルの実現に貢献するための下水道技術に関する新たな技術開発プロジェクトの設置等」を追加</li> </ul>